

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：32521

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K03029

研究課題名(和文) 貧困の子どもの支援を目指した公私空間を橋渡しする第3空間の探索的開発

研究課題名(英文) Exploratory development of Third Space bridging public and private sphere for poor youth

研究代表者

茂呂 雄二 (Moro, Yuji)

東京成徳大学・応用心理学部・教授

研究者番号：50157939

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、貧困や格差を背景とする子ども・若者の私的空間から公共空間への移行困難と、この困難がもたらす社会情動スキルの未発達問題に挑戦する、教育心理学的なアクションリサーチである。貧困に起因した様々なリスクをかかえる子ども・若者を対象に、家庭とも学校とも異なる社会文化的な経験を付与する学習機会を、パフォーマンス心理学にもとづいて、探索的な組織化を目指すものである。本プロジェクトでは、社会技術としての第3空間のアイデアを理論化し、社会関係資本に乏しい貧困の子ども・若者に対して、ボランティアの大人(子ども達の身近なヒーロー)が社会文化的資本を再配分する介入的な仕組み作りを行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術上あるいは社会的意義のうち一番重要な点は、必要性が学界・ビジネス界などで認められつつありながらも、現在までのところ十分には開拓されていない、パフォーマンスアプローチ心理学に基づく研究であるという点である。従来のリニアで因果論的な学習・発達のモデルと異なり、パフォーマンスアプローチは、実践的に人々の発達支援を明らかにするという特徴を持っており、このパフォーマンスアプローチを開拓し、実際に実装可能な理論化を進めることができた。

研究成果の概要(英文)：In this research, we aim at developing an action research that challenge the problem of under-developing among the children and youth who are in socio-economical impoverished status and are suffering from transition problem from the private area to public sphere and from under-growing of socio-emotionality. We investigated and explored the conditions for building learning environment where impoverished children and youth with various risks would be given socio-cultural and performatory experiences that are not provided from schooling nor from home. We theorized the concept of the third space as soci-cultural and performatory technology, which is societal institution that re-distribute the social capitals for impoverished children from volunteering adults.

研究分野：学習・発達心理学

キーワード：学習 発達 パフォーマンス 交換形態 社会技術 第三空間 社会関係資本

## 1. 研究開始当初の背景

2012年、我が国の子どもの相対貧困率は16.1%となり、貧困と格差はますます拡大し、国も『子どもの貧困対策の推進に関する法律』(文部科学省2013)を施行し「子供の貧困対策に関する大綱」(内閣府2014)を閣議決定するなど、子どもの貧困対策が喫緊の課題となっている。本プロジェクトでは、貧困に曝される子ども・若者の公ノ私空間の在り方の観点から、貧困問題への介入プログラムを開発し、実装可能なモデル構築を目指す。

本プロジェクトでは、私空間と公共空間の適切な往還が子ども・若者の社会情動的スキルの発達を促すとの仮説に立って、この往還を可能にする橋渡し空間(公ノ私空間の“間”となる第3空間)を学習空間として組織し実装するため、(1)第3空間を通じた感情発達理論を提案し、(2)この理論に基づく持続可能・自走可能な社会技術を開発し、(3)この社会技術を利用する地域コミュニティネットワークの構築を目指す。

## 2. 研究の目的

学習空間である第3空間の仕組み作りを第一の目標とする。第3空間の発達・学習心理学の観点から理論的に意味付けながら、具体的な仕組みを提案し、それを研究開発期間内で実装可能なモデルを提案し、試用していただくことを目標とする。

第3空間は、発達のニーズをもちながらも貧困のために十分に社会文化資本の配分に与れない子ども・若者と、自分の持てる社会文化資本をボランティアに提供する大人が、出会う空間として仕立てる。

本プロジェクトでは、将来の安心安全のためには、たとえ迂遠に見え、迂回的な対策に見えても、第3空間を通して、子ども・若者が、公共圏の担い手として、社会化しコスモポリタン化することをエンパワメントすることのほうが、社会経済的なコスト削減につながるという見通しに立って研究開発を進める。非行や反社会的行動、非正規雇用や低収入就労、貧困の固定化などの、社会の活力をそくような事象を防ぐ、社会保障の観点からも、子ども・若者の未来への投資は有効だと考える。また本プロジェクトが提案する、第3空間は、容易に他の地域コミュニティにも転移可能であり展開が期待できる。

## 3. 研究の方法

第3空間は、(1)代替通貨部門、(2)研修部門、(3)プロダクト発信部門の3部門から成る。

(1)代替通貨部門：子どもが地域コミュニティへと貢献する(地域での挨拶運動や公園等の清掃活動などのお手伝い、あるいは第3空間の運営の手助けなど)ことで代替通貨『ヒーローコイン』に交換する仕組みである。

(2)研修部門：これを原資にして会ってみたいヒーロー(プロの大人、あこがれの職業人等)とともに学習・研修する仕組みである。

(3)プロダクト発信部門：子ども・若者、そして大人の学習のプロダクトを第3空間のボランティアの支援を受けながら発信する仕組みをデザインする。この第3空間のデザインは、基礎的なニーズ調査(子ども、若者、地域住民の安心・安全ニーズ、子どもがどのようなヒーローを求めているか、ヒーロー候補としてどのような人物が地域に潜在するか)にもとづいて行われる。本プロジェクトでは、この第3空間システムを、地域の子どもの発達支援実践家、行政、学校の活用を通じた発達支援として完成させる。これを通して、貧困と格差に曝されている子ども・若者も、世界へ飛び立てるような仕掛けを用意し、地域社会が、独自の新規の子ども・若者支援を自走させ、さらに発展させるような地域の新しい価値を実現する。

## 4. 研究成果

本研究は、貧困や格差を背景とする子ども・若者の私的空間から公共空間への移行困難と、この困難がもたらす社会情動スキルの未発達問題に挑戦する、教育心理学的なアクションリサーチである。貧困に起因した様々なリスクをかかえる子ども・若者を対象に、家庭とも学校とも異なる社会文化的な経験を付与する学習機会を、パフォーマンス心理学にもとづいて、探索的な組織化を目指すものである。本プロジェクトでは、社会技術としての第3空間のアイデアを理論化し、社会関係資本に乏しい貧困の子ども・若者に対して、ボランティアの大人(子ども達の身近なヒーロー)が社会文化的資本を再配分する介入的な仕組み作りを行なった。

また、これまで整備が不十分であった、パフォーマンス心理学の理論整備を行なった。

一つには、貧困にさらされている子どもたちへの観察・インタビューに基づいて、貧困の子どもたちを取り巻く社会文化物質的な環境特性について、パフォーマンスの観点から“Essay on socio-material studies of learning oriented to social change: Re-defining subjectivity as

perpetual conflict between power and resistance”としてまとめた。今後出版の予定である。

また、これまで十分に明らかとはなっていなかった、パフォーマンスの意味について、L. Wittgenstein の言語論並びに、F. Newman の言語哲学から明らかにして、『初めてのパフォーマンスアプローチ心理学』（新曜社近刊）としてまとめた。これも 2023 年中に出版の予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 茂呂雄二	4. 巻 9
2. 論文標題 パフォーマンス心理学と日本語教育：コロナ禍の中で見直す言葉の教育	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語教育実践「イマ・ココ」	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岸磨貴子	4. 巻 1
2. 論文標題 遊びを通して拓く共生の場のデザイン 難民支援を行うトルコのNGOを事例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JAMCOオンライン国際シンポジウム	6. 最初と最後の頁 40-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大谷温理、岸磨貴子	4. 巻 4
2. 論文標題 教育開発における異文化間協働を通じた新しい活動の生成プロセス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本教育工学会研究会	6. 最初と最後の頁 166-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 北本遼太・茂呂雄二	4. 巻 27
2. 論文標題 「交換形態論」の再評価と「パフォーマンスとしての交換」への拡張：学習のアレンジメント形成における感情の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 44-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北本遼太・茂呂雄二	4. 巻 58
2. 論文標題 ギブ- ゲット関係の転換としての発達 : F. Newman のアイデアと状況的学習論の深化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 筑波大学心理学研究1-12.	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岸磨貴子	4. 巻 50(2)
2. 論文標題 難民の子どもの支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心と社会	6. 最初と最後の頁 91-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂呂雄二	4. 巻 50(3)
2. 論文標題 パフォーマンス心理学 : 共生のアート	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心と社会	6. 最初と最後の頁 95-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirose, T and Moro, Y	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 Socio-Material Arrangements of Impoverished Youth in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Mind, Culture and Activity	6. 最初と最後の頁 95-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10749039.2019.1604000	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北本遼太・茂呂雄二	4. 巻 27 (1)
2. 論文標題 「交換形態論」の再評価と「パフォーマンスとしての交換」への拡張	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 44-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11225/jcss.27.44	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takumi Hirose & Yuji Moro	4. 巻 24,2
2. 論文標題 Socio-material arrangements of impoverished youth in Japan: historical and critical perspectives on neoliberalization	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Mind, Culture, and Activity	6. 最初と最後の頁 95, 109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10749039.2019.1604000	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件(うち招待講演 1件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 茂呂雄二
2. 発表標題 パフォーマンスの意味
3. 学会等名 日本質的心理学会第17回大会会員企画シンポジウム：知識偏重社会への警鐘 「知らない」のパフォーマンスが未来を創る (ZOOM開催)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 茂呂雄二
2. 発表標題 パフォーマンスのインパクト
3. 学会等名 国際ワークショップ『ロイス・ホルツマン博士と語る「共生と発達のアート：パフォーマンス心理学」』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 茂呂雄二
2. 発表標題 ソーシャルセラピューティクスとアクション
3. 学会等名 日本アクションメソッド普及協会 秋大会 in ZOOM
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 茂呂雄二
2. 発表標題 パフォーマンス心理学の拡張：ウィトゲンシュタインの像・想像・臨床
3. 学会等名 認知科学会 教育環境のデザイン分科会（DEE）研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 茂呂雄二
2. 発表標題 みんなで楽しく発達する パフォーマンス心理学入門
3. 学会等名 2022東京未来大学 モチベーション研究所 第17回フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸磨貴子
2. 発表標題 多文化共生を拓く異文化理解教育の実践：パフォーマンス心理学から捉える多様性がつながる場のデザイン
3. 学会等名 第42回異文化間教育学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Onri Ootani, Makiko KISHI
2. 発表標題 The Factors of Emotional Development of Adolescents in Djibouti ~Focus on the interaction with an outsider~
3. 学会等名 International Conference for Media in Education 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大谷温理、岸磨貴子
2. 発表標題 NGOスタッフの情動的発達の変化：海外協力隊の参入のプロセスに着目して
3. 学会等名 日本教育工学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hirose, T., Kitamoto, R., Moro, Y.
2. 発表標題 Talent Show and its Impact in Japan
3. 学会等名 Performing the World Happening(s) first All Stars International Talent Show. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 茂呂雄二
2. 発表標題 パフォーマンスの意味
3. 学会等名 日本質的心理学会第17回大会会員企画シンポジウム：知識偏重社会への警鐘 「知らない」のパフォーマンスが未来を創る
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 茂呂雄二
2. 発表標題 パフォーマンスのインパクト
3. 学会等名 国際ワークショップ『ロイス・ホルツマン博士と語る「共生と発達のアート：パフォーマンス心理学」』科学研究費基盤C「貧困の子どもの支援を目指した公私空間を橋渡する第3空間の探索的開発」代表茂呂雄二（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岸磨貴子
2. 発表標題 パレスチナにおける教師と児童生徒の相互理解の取り組み UNRWAの「Play（遊び/演じる）」実践事例から
3. 学会等名 異文化間教育学会第41回大会（2020/06/13）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石田喜美・岸磨貴子・茂呂雄二・佐伯胖・太田礼穂・新原将義・渡辺貴裕・山口悦子・サトウタツヤ
2. 発表標題 「知らない」のパフォーマンスが未来を創る：知識偏重社会への警鐘
3. 学会等名 日本質的心理学会第17回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸磨貴子
2. 発表標題 パレスチナにおける教師と児童生徒の相互理解の取り組み UNRWAの「Play（遊び/演じる）」実践事例から
3. 学会等名 異文化間教育学会第41回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirose, T., Otsuka, S., Kitamoto, R., Moro, Y. and Miyamoto, M.
2. 発表標題 Playing with “Let’s Develop!” : Performing Giving in the Culture of Neoliberalism
3. 学会等名 Performing the World 2018: Let’s Develop! at All Stars Project Inc., New York City, September 23, 2018. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茂呂雄二
2. 発表標題 パフォーマンス心理学と協働実践の意味.
3. 学会等名 第11回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 岸磨貴子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 420
3. 書名 久保田賢一 (編著) 『途上国の学びを拓く』 (教育開発に関わるわたしの位置性ーパレスチナ、p97-121)	

1. 著者名 茂呂雄二	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 230
3. 書名 パフォーマンス心理学：共生と発達のアート	

1. 著者名 茂呂雄二	4. 発行年 2018年
2. 出版社 サイエンス社	5. 総ページ数 248
3. 書名 スタンダード学習心理学	

1. 著者名 茂呂雄二	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 230
3. 書名 パフォーマンス心理学：共生と発達のアート	

1. 著者名 茂呂雄二	4. 発行年 2019年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 196
3. 書名 ユーモアの即興から生まれる表現の創発 発達障害・新喜劇・ノリツッコミー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岸 磨貴子  (Makiko Kishi)  (80581686)	明治大学・国際日本学部・専任准教授   (32682)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 国際ワークショップ『ロイス・ホルツマン博士と語る「共生と発達のアート：パフォーマンス心理学」』	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際ワークショップ『ロイス・ホルツマン博士と語る「共生と発達のアート：パフォーマンス心理学」』	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------